

VALQUA GROUP  
CSR REPORT

**2018**

# Value & Quality



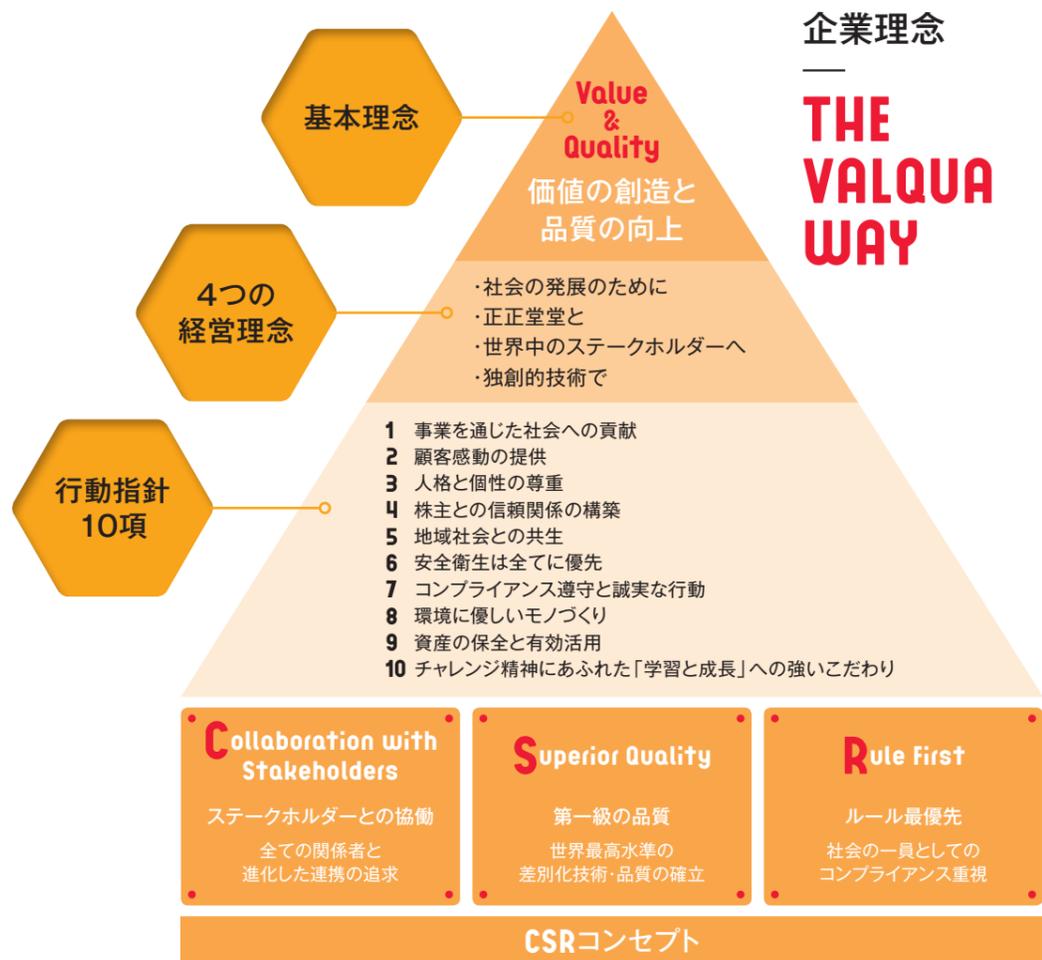
# VALQUA GROUP CSR Report 2018

## CONTENTS

03	トップメッセージ	14	Human Resources	人権尊重／ダイバーシティ
06	バルカーグループ概要 真のグローバル企業を目指して	15	Human Resources	人材育成
08	バルカーと社会との関わり	16	SHE	SHE委員会
		17	SHE	SHE基本方針
		18	SHE	安全衛生推進活動
		19	SHE	環境保全への取り組み
		20	Production	顧客満足への取り組み
		21	Production	サプライチェーンマネジメント
		22	Community	地域社会との共生
		23	Community	国際支援／スポーツ支援
		24	Governance	コーポレートガバナンス
		25	Governance	コンプライアンス
		26	Governance	コンプライアンス／リスクマネジメント
		27		報告概要

### 【 Feature 】

- 10 特集① 人材  
人材ダイバーシティの推進
- 12 特集② H&S  
環境課題の解決、  
世界の安全操業のために



## TOP MESSAGE

### 真のグローバル企業として 新たなステージへ

バルカーグループは、創業から現在まで「Value(価値)」と「Quality(品質)」に対するあくなき追求を続け、シールエンジニアリングのパイオニアとして、世界中のあらゆる産業基盤を支えてまいりました。

この間、さまざまな外部環境や社会情勢の変化があり、企業に対する社会の期待も常に変化してきました。変化し続ける時代の要請に応え、持続可能な社会の構築に寄与することは、今や当たり前のように求められる企業の使命と捉えております。

こうした変化のなかでも、社名の由来である基本理念「Value & Quality(価値の創造と品質の向上)」や行動指針10項からなる企業理念「THE VALQUA WAY」が、バルカーグループのCSRの基盤であることは変わりません。企業理念「THE VALQUA WAY」は、従業員一人ひとりが理解し、共感しながら、日々実践に取り組めるものです。

## H&S事業を軸としたイノベーションで、 世界中のステークホルダーへ感動を提供し、 健全で持続的な成長を目指します。

そこから独自のCSRコンセプトである「Collaboration with Stakeholders (ステークホルダーとの協働)」 「Superior Quality(第一級の品質)」 「Rule First(ルール最優先)」が生まれました。そして、このコンセプトに沿った「THE VALQUA WAY」の実践こそが、幅広いステークホルダーの皆さまの期待に応え、感動を提供していくための確かな道となります。これこそが、バルカーグループのCSR活動が全社員にとって特別なものではなく、日々の業務活動そのものである所以なのです。

## 第8次中期経営計画「NV・S8」

バルカーグループは、2018年度から第8次中期経営計画「NV・S8(New Valqua Stage Eight)」をスタートしました。お客さまの安心・安全はもちろんのこと、グローバル規模で高まる安心・安全への要求に応えたいと考えております。「NV・S8」では、これまで培ってきた技術を生かしたシールエンジニアリング・サービスをさらに発展させ、グローバルな市場で新たな価値の創出を目指します。

その覚悟を胸に、創業90周年を迎えた2017年から、100周年、そしてその先を見据えた新たなステージへ踏み出すため、2018年10月に社名を「日本バルカー工業株式会社」から「株式会社バルカー」に変更しました。

新たなステージでの中核を担う「H&S(ハード&シールエンジニアリング・サービス)事業」は、持続可能な産業の創造やそれを支える人々への技術教育といった面で、国連で採択された「SDGs(持続可能な開発目標)※」の達成にも寄与することができるものです。

今後も、活動の地域と領域を着実に広げつつ、各国の公的機関との協業などを通じて、世界の課題解決に貢献すべく努めてまいります。

## 「THE VALQUA WAY」を支える人材

人員構成の約半分が海外人材であるバルカーグループでは、ダイバーシティを進めるとともにグローバルに活躍できる人材育成に早期から取り組んでまいりました。

また、「人格と個性の尊重」という行動指針に基づいて「バルカーグループ人権基本方針」を制定し、国籍・性別・年齢・宗教などにとらわれない企業活動を徹底して推進しています。

グループ全従業員がそれぞれのバックグラウンドを認め合い、それを生かして自らの価値を高め、「自分ならではの取り組みを行うこと。これこそが、バルカーグループ行動指針の一つである「チャレンジ精神にあふれた『学習と成長』への強いこだわり」の実践、そして世界で競い合える人材として成長し続けることへとつながります。これは、事業環境が世界規模で激しく変化する現在の状況において、企業が持続的に成長するための不可欠な要素でもあるのです。

新たにスタートした「NV・S8」では、「時代の変化を先取りした人材開発と企業風土の改革」を基本方針の一つとして掲げました。そして、OJT教育をはじめとする個人のスキルアップやチーム力アップのためのトレーニングによって、バルカーグループの成長を支える「バルカーパーソン」としての「個」の育成を強化し、組織の活性化と風土改革に取り組んでまいります。

さらには、全ての活動の基盤である「コンプライアンス遵守と誠実な行動」をバルカーグループの一人ひとりが実践し、皆さまからの信頼に応え続けられるように努めてまいります。

2018年12月  
代表取締役社長 兼 CEO

龍澤利一

## 第8次中期経営計画 NV・S8 (New Valqua Stage Eight)

バルカーグループは、2018年度から「NV・S8」をスタートしました。「NV・S8」では、「H&S」を軸とした健全で持続的な成長を目指し、以下の4つの基本方針のもと、収益力の強化を図るとともに、企業基盤の整備を行ってまいります。

1. コーポレートガバナンスのさらなる充実
2. 「選択と集中」による事業、機能の見極めと積極的な成長投資の実行
3. グローバルな収益基盤の拡大強化
4. 時代の変化を先取りした人材開発と企業風土の改革

※ 持続可能な開発目標  
(Sustainable Development Goals : SDGs)

貧困、格差、気候変動、持続可能な消費と生産など国際社会共通の課題に対し、2030年までに達成すべき17の目標と169のターゲットを2015年に国連が採択。より良い世界づくりに向けた行動が要請されています。

## CSRマネジメント

### 持続可能な社会のために

バルカーグループは、企業理念「THE VALQUA WAY」のもと、たゆまぬ成長を目指して日々挑戦を続けていきます。そして、創業以来培った技術とサービスで社会とお客さまの課題解決につながる価値を創造・提供し続け、持続可能な社会のために貢献してまいります。

### CSR推進体制

積極的かつ確実な実行を担保するため、CSRコンセプトに基づく活動をラインに取り込み、推進責任を明確化しています。また、CSR活動全体の整合性を確保し横展開を促進するため、「CSR協議会」を設け、グループ内の各組織が連携して活動テーマに取り組んでいます。



### CSR活動 テーマ課題

バルカーを取り巻くさまざまな社会的な課題に対し、複数のテーマ課題を設定し、定期的な検証を行い、CSR活動を推進しています。今後、国内外のさまざまな視点を取り入れながら、テーマ課題を見直し、国際社会からの期待に配慮した活動の展開に努めます。

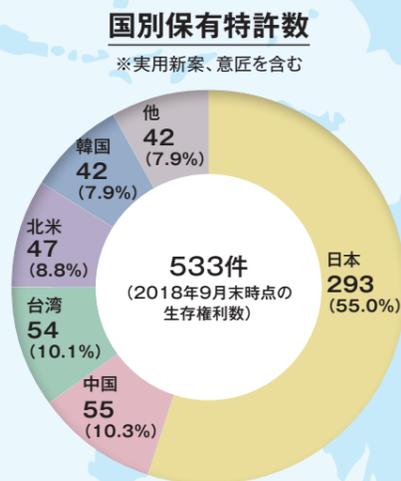
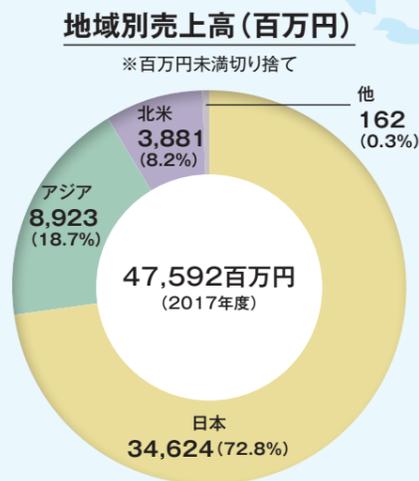
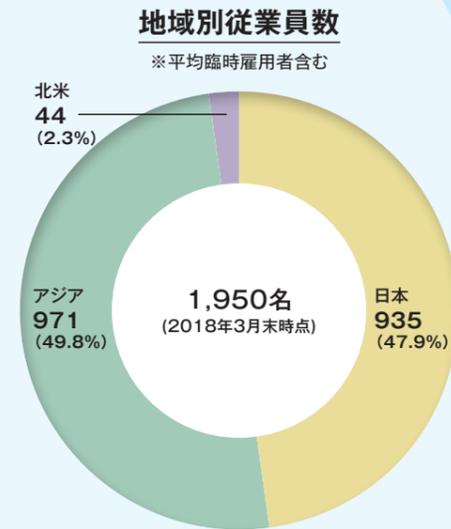


株式会社バルカーに商号変更

## 真のグローバル企業を目指して

2018年10月1日、私たちは“第二の創業”の決意とともに、「株式会社バルカー」に商号変更。常にステークホルダーの皆さまに寄り添い、期待にお応えできるよう、世界を舞台にチャレンジを続けます。

- ★ シールトレーニングセンター
- 海外連結子会社
- 研究開発拠点



### Topics

#### バルカーアメリカ創立20周年

1998年6月、米国に「VALQUA AMERICA INC.(VAI)」を設立し、2018年度に創立20周年を迎えました。主に半導体装置向けに高機能エラストマー製品の販路を拡大し、2017年度、好調であった2016年度からさらに業績が伸長しました。2017年度のバルカーグループ関係会社表彰において、従業員のやる気や顧客満足度を追求した取り組みなどの総合的な実績が認められ、グループへの貢献度が最も優れている会社として表彰されています。



バルカーアメリカ 社長 増田芳正

VAIの半導体向けビジネスは、1999年に大手日系デバイスの生産工場があったテキサス州サンアントニオで開始しました。その後、日系半導体メーカーの米国からの撤退もあり、2001年にカリフォルニア州サンタクララへVAI本社を移転。当時はアメリカ同時多発テロ(9.11)の影響もあり、景気は最悪でした。2003～2004年頃に大手半導体メーカーでの採用が進み業績が大きく伸びましたが、2008年のリーマン危機で売上が激減し、リストラを実施。しかし2013年頃から大手装置メーカーでの採用もあり、業績が大きく向上を始めました。その後もVAIスタッフの継続的なチャレンジに加え、本社、その他関係者からも多大なサポートをいただきました。米国には、半導体業界大手の本社・研究開発機能があり、米国の重要性は増すばかりです。今後もビジネス機会と技術情報をグローバルに発信しグループの持続的成長にいっそう貢献する所存です。

# バルカーと社会との関わり

私たちの“製品&サービス”が  
さまざまなところで活躍しています



**ふっ素樹脂加工品**  
高い絶縁性能を活かし、  
落雷の影響を無くす機器  
や送電量をコントロール  
する機器で用いられます。

**変電所**



**再生シリコンウエハー**  
半導体製造装置の動作チェックなどで使用され  
たシリコンウエハーを、独自のノウハウで  
研磨・洗浄し、新品同様に再生・提供するこ  
とで、環境負荷低減に貢献しています。

**ライニングタンク**  
ふっ素樹脂シートで内貼りした薬液用タンク  
で、半導体製造で使用される超高純度の薬液  
の貯蔵、搬送に欠かせない製品です。

**半導体工場**



**高機能エラストマー**  
不純物の少ない特殊なゴムに表面処理を施し  
た製品で、半導体製造に不可欠なクリーンな  
環境を保っています。

**ボンDEDゲートシール**  
高機能エラストマーと金属の一体型シールで  
す。高いシール性を持ち、シリコンウエハー  
の搬入口に用いられています。

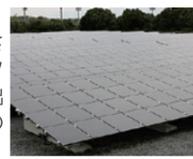
**L 携帯電話基地局・自動車**

**PTFE基板**  
PTFEの優れた電気特性和耐候  
性を活かした基板材料がアンテ  
ナ機器周辺および自動運転にも  
使用され、安全・高速・大容量  
通信の実現に寄与しています。



**K 太陽光発電**

**太陽光発電事業**  
九州バルカーの敷地内に設置さ  
れたメガソーラーは、日々ク  
リーンなエネルギーを生み出  
し、地球環境の保全と地域への  
貢献につなげています。



**J 建設機械**

**Oリング**  
動的シールの代表的な製品で、  
用途に応じたゴム材料を使用す  
ることにより幅広い産業からの  
ニーズに対応しています。



**ピンダスト・スラストワッシャー**  
ショベルカーなどのアームの可  
動部に組み込まれ、土砂の侵入  
防止や機械内部の油の流出防  
止、隙間調整の役割を担って  
います。



**I ポータブルメディア**

**ふっ素樹脂テープ**  
高い絶縁性と優れた加工性を持  
ち、通信機器の性能向上と小型  
化に貢献しています。



**H シールエンジニアリングサービス**

**STC (シールトレーニングセンター)**  
バルカーの持つシールエンジニアリングテクノロジー  
をお客さまと共有し、プラントの安全な操業、機器の  
確実な作動につなげています。シール材の選定や適切  
な使用方法についての座学と、現場の配管フランジを模  
擬した実習を行う体験型研修施設で、人材育成の場を  
提供しています。

**H&Sデモカー**  
新たに開発・取り扱  
いを開始した製品&  
サービスをデモ実演  
および体験を通じて  
全国のお客さまに紹  
介しています。



**宇宙ロケット・人工衛星**

**メタル中空Oリング**  
宇宙空間においても漏れを防ぐ  
ほどの高機能ガスケットで、ロ  
ケットや人工衛星のほか、高  
温・高圧・高真空が要求される  
機器に使用されています。

**B 工場・オフィス**

**LED照明**  
低消費電力で長寿命が特徴の製  
品です。豊富なラインアップ  
で、幅広いニーズに対応可能で  
あり、環境負荷の低減にも貢献  
しています。

**C 医療機関**

**バルフロン切削テープ**  
ふっ素樹脂を高高度な技術で切削  
した気密性・摺動性に優れた製  
品で、注射器用滑栓などに使用  
されています。

**D 自動車**

**オートマチックトランスミッション  
(AT) 用ガスケット**  
金属板に特殊紙を貼り付けた製  
品で、AT作動に欠かせない油  
圧コントロール装置に使用し、  
安定動作を補完する役割を担っ  
ています。

**E 船舶**

**グラウンドバックン**  
作動軸周辺からの漏れを防ぐ製  
品で、主に流体の流量をコント  
ロールするバルブや回転ポンプ  
で使われています。

**ジョイントシートガスケット**  
幅広い流体に対応する性能を持  
つ汎用ガスケットです。船舶・  
プラントなどのほか、住宅設備  
などあらゆるシーンで活躍して  
います。

**F 製鉄プラント**

**高機能シートガスケット**  
従来の製品の性能を大きく上回  
り、特に高温耐性が要求される  
プラントで活躍しています。



**うず巻形ガスケット**  
金属の補強をつけた製品で、高  
温度・高圧力で運転されるプラ  
ントの安全操業を支えています。



**回転軸シール (LFR SEAL®)**  
摺動性に優れたシール材で、各  
種生産用機器の回転および揺動  
部向けに開発されました。



**PFAライニングボールバルブ**  
化学薬品に強いふっ素樹脂を接  
液部全面に採用し、幅広い種類  
の流体の制御に活躍しています。



**G 化学プラント**

**ふっ素樹脂ライニング製品**  
化学薬品に強い、表面が平滑である、  
などのふっ素樹脂の特性を活かし、中  
を流れる流体の純粋性を保っています。



**ふっ素樹脂ガスケット**  
化学薬品に強い素材でできており、  
配管や機器のつなぎ目から薬液やガ  
スが漏れるのを防いでいます。





「この方」がトップであれば、私はずっとこの会社で働こう、また、自分が持っている知見、人脈を最大限に発揮し、瀧澤社長の目標を実現するため力を尽くしたいと、そのとき、強く決心をしました。

### 美しき道を歩む今後へ

研究所は2004年の設立以来、中国市場向けの製品や、日本の開発部と連携で開発したGF、SF、MF、UFシリーズを上市してきました。2015年7月、青木常務執行役員がリードする研究開発本部が創設され、中国総合研究所(2008年設立、シール研究所はその傘下)もR&Dの中でチームとして一体感を持った運営ができるようになりました。各所員が誇りを持ち、製品開発、技術サービス、基礎研究、H&S(ハード&サービス)教育など、さまざまな分野で能力を発揮し、活躍しています。これらの成果は、営業、生産、各部署の社員たちの協力、共同作業によって得られたものであると、心から深く感謝しています。

私自身も研究、マーケティングを経験し、2015年4月にシール研究所に戻り、現在、総合研究所中国現地の開発業務全般を管理しています。日本の本社、海外のタイ、ベトナム工場との連携や、外部団体との交流など、楽しくも充実した日々を送っています。今後は所員一丸となってグローバル市場向けの製品開発、H&S事業の拡大、技術伝承を担う研究者の育成に全力を尽くし、当社の理念であるTHE VALQUA WAYの美しき道で社員、顧客、投資者、その他あらゆる関係者との触れ合いを大切に、皆で創る未来に向かって、輝き続けたいと願っています。



西田シニアフェローと規格委員会の会合へ参加

議に参加するうちに、事務局長や他の幹部にも認められ、やっと実質的な話ができるようになり、2007年に初めて規格制定用の評価試験が当社の研究所に委託されました。これを機に規格制定に向けた活動に参加できるようになり、委員会の上層部に好印象を与え、2008年委員会へ正式入会することができました。同年、別のシール材料を管轄する「非金属鉱物規格委員会」にも入会することができ、2010年および2011年、私は同委員会から「先進個人※」として表彰されました。

※先進個人：国が推進する規格委員会に積極的に関与し、顕著な成果をあげたことで、他の模範となる個人に与えられる賞



先進個人表彰状および規格証書他

### 会社と共に成長していく決心

2005年に開催された当社の中国生産会社10周年記念式典の日、テーブルアテンドを担当していた私は、急用でいったんホテル会場を出るため、出口に向かって足早に通路を歩いていました。そのとき、十数人の団体が私のいる方向に移動してきました。私は近視のため、一番前を歩いている男性とぶつかりそうになりました。後で、その方が当社の瀧澤社長とわかり、非常に恥ずかしく思いました。当時、瀧澤社長に対する第一印象は、厳しい方で、まるで別世界の人のように遠い存在だということでした。一方で、ポケットチーフをしている姿を見て、非常にお洒落な方とも思っていました。

それ以降、業務報告会やラーニング会食などの機会を重ねるうちに、瀧澤社長と少しずつ会話ができるようになりました。ある日、雑談の中で、CSRの話題で盛り上がり、瀧澤社長がご自身の目標を語ってくださいました。その瞬間のことは、深く私の記憶に刻まれ、今でも目に浮かびます。瀧澤社長が語るその目の奥には、夜空の星のようなきらきらした輝きがありました。そして、その目標に対して抑えられないほど湧き上がる情熱と挑戦の気持ちを強烈に感じました。これまで、仕事やプライベートで何人もの人の目標を聞いてきましたが、そのときのあの方の表情、パワフルな気持ちに思わず感動していました。そのことは一生忘れられないだろうと思っています。人は最高の熱意と強い意志をもってこそ、その思いは隠しきれず表情に表れてくる。

世界で活躍するバルカーパーソン

## 人材ダイバーシティの推進

研究、マーケティング経験から得た知見を活かして、グループ幹部の一員として開発力向上を目指す

中国総合研究所 副所長

馮梅 (フェンメイ)

中国総合研究所の副所長として、日本の研究開発本部と連携したシール製品開発、技術ニーズ探索、中国シール事業拡大のための技術サポートに関する責を担う。

### バルカーとの絆の始まり

今年で入社15年目の私は、「あの方々」に出会えなければ、現在バルカーにはいないだろうと思っています。

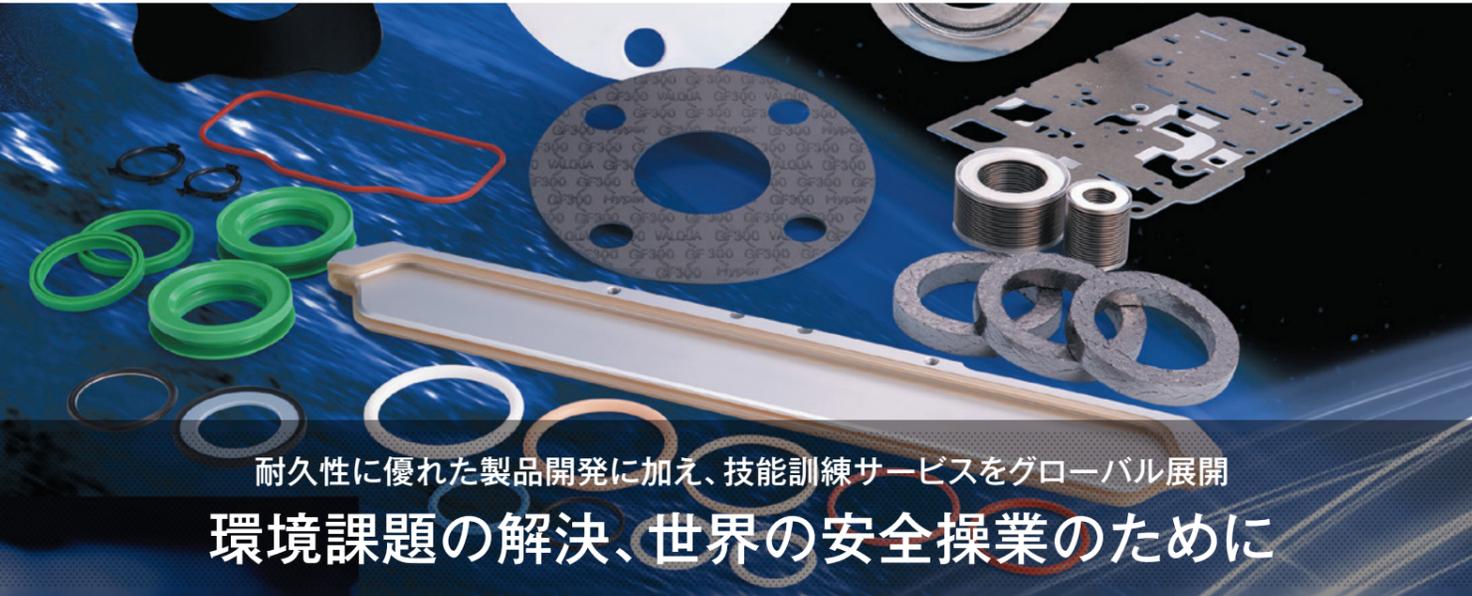
バルカーとの絆の始まりは2004年、中国シール研究所(現：中国総合研究所)にて入社面接をしたときです。初対面の面接官は、ビジネスマンによくある紺のスーツ、白のシャツではなく、ダークブラウンのスーツに黄色のシャツを着ており、温かく、親切な印象でした。面接は通常の仕事内容の説明、履歴の確認などを経て、最後になぜか、化学専門用語の詳細について会話をしました。そのことは、今でも不思議に思っています。面接官であった「その方」、西田初代所長(現シニアフェロー)は知識が豊富で、優しい方でした。まるで大学時代の自分の担当教授とディスカッションをしているようで、私は緊張することもなく、楽しく面接時間を過ごしました。結果的に、最初に不安に思った馴染みがない「シール」のことをまったく気にすることなく、他2社のオファーを断り、バルカーへの入社を決めました。

### チャレンジと執着心

当社の中国総合研究所では、通常のシール製品の開発業務以外に、外部に向けた講演・講習会などを行い、シールに関する知識の普及に努めています。そのため、国(規格関連)、大学、産業界などの外部団体と積極的に交流しています。

ガasketに関連する最大の規格団体「管路附件(かんろふけん：配管と付属関連部品)規格委員会」はシール業界で有名な団体です。通常、中国では国の政策により、当社のような外資系企業は規格団体への入会を禁止されています。さらにこの団体の事務局長は、他の規格団体の中国代表でもあり、国際規格制定の場での日本代表との意見の相違によって、日系企業には強い抵抗感を持っておられました。この時点では当社が規格委員会へ参加する道はまったく見えず、前に進むこともできませんでした。この大きな壁をどう越えるか?と非常に悩み、悩んだ末、何も行動しなければ得られるものはないと決心し、行動に移しました。

私は、規格団体の活動案内がなくても知り合いから情報を入手し、傍聴する形で委員会の会議に参加することから始めました。事務局長の厳しい、怖い目を気にしながら会議室の一番後ろに座りました。宴会のときなどには、委員会の幹部がいるテーブルに敢えて座り込み、必ず自己紹介をし、あらゆる話題に積極的に参加しました。繰り返し会



耐久性に優れた製品開発に加え、技能訓練サービスをグローバル展開  
環境課題の解決、世界の安全操業のために

環境汚染物質の漏れを抑えて環境負荷を低減

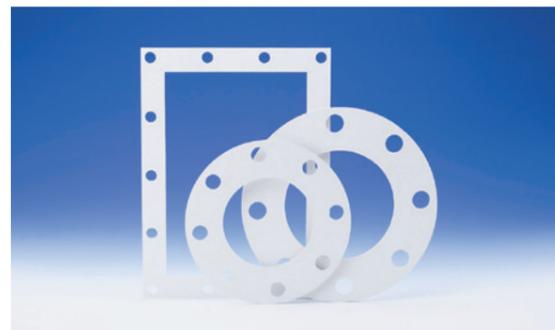
バルカーグループは、環境に配慮した製品、お客さまの安全・安心に貢献する製品の創出に取り組んでいます。とくにシール製品は、プラントの配管などを流れる流体の漏洩を防ぐ、重要な役割を持った製品です。これにより直接的に環境汚染を防いでいます。

近年、世界的に環境規制が進み、プラントの環境汚染物質やVOC(揮発性有機化合物)などの排出量を削減する動きが進んでいます。バルカーグループのシール製品は、さまざまな過酷な条件下でプラントからの流体の漏洩を防いでおり、この環境汚染物質削減の一翼を担っています。また、大気汚染の問題だけでなく、腐食性流体や高温流体といった危険性の高い流体による製品劣化を防ぎ、長期的なプラントの安全確保を目指しています。

課題を解決する技術開発への挑戦

我々を取り巻く環境課題は、ますます複雑になっています。プラントから排出される環境汚染物質の低減、サプライチェーン全体での環境貢献、環境や人体に安全・安心な材料を用いた製品提供など、より高い環境意識を持った製品開発が求められています。

バルカーグループでは「環境憲章」を定め、製品に直接関係する環境課題の解決にとどまらず、生産に関わる環境リスクの低減や、事業を通じた社会課題解決にも取り組んでいます。今後も独創的な技術とノウハウを活かしたサービスの開発に挑み、H&Sを基本コンセプトに据えた新たな価値をグローバル市場で提供していきます。



1000℃以上で使用可能なシートガスケット  
バルカーヒートレジストシート® No.HRS

バルカーヒートレジストシート®は、1000℃以上の高温環境下で使用可能なシートガスケットです。今までの製品と比較して格段にシール性が向上しており、燃焼ガスに含まれるNO<sub>x</sub>やSO<sub>x</sub>等の環境汚染物質の排出低減に効果的です。化学、石油精製、製鉄、製紙など、さまざまなプラントの燃焼炉、ダクト、分解炉、ボイラーのシール材として使用されています。



腐食性ガスでも長期的に使用可能なガスケット  
ハイグレードバルフロン®ジャケットガスケット No.N7030(F)

バルフロン®ジャケットガスケットとは、ジョイントシートをPTFE外被で包んだガスケットです。比較的経済的なガスケットとして幅広く使用されています。しかしながら、従来のジョイントシート中芯では、中芯が腐食性ガスで劣化するため、長期使用に不安がありました。ハイグレードバルフロン®ジャケットガスケットは、中芯にPTFEを主成分とする高機能シートガスケットを用いることで、耐薬品性が格段に向上しており、腐食性流体をはじめとするさまざまな流体に対して、長期的に安全に使用できます。

技術者の育成支援で事故を防止

今日の日本では技能継承の遅れやプラント設備の老朽化が問題視されており、メンテナンス技能の維持向上やプラント事故の抑制が課題となっています。また、新規設備や増設設備の計画が多い新興国などでも、シール材の選定不良や施工不良による漏洩トラブルが常態化しており、作業員の育成が急務です。

これらの問題の解決には、作業員がシール材の機能を確実に発現できる施工技能を習得し、そのノウハウを伝承していく仕組みが必要です。その仕組みの構築は、シール材メーカーであるバルカーグループの使命と捉えています。

そこで2014年に、現場での施工要領を学習する場として、体験型の教育センター「シールトレーニングセンター(STC)」を設立しました。ここでは、「なぜそうなるのか(なぜ漏洩が発生するのか、なぜシール材の選定と現場での施工が重要なのか)」を知るところから、「どうすべきか(どんな施工をすべきか、問題をどう解決すべきか)」を知るところをコンセプトとし、座学と実技を組み合わせた技能訓練サービスを展開しています。



技能訓練サービスをグローバルに展開

STCは、東京都町田市と奈良県五條市の研究拠点にあり、海外では中国・韓国・台湾・タイ・ベトナムに開設。その他、移動・組立式の設備と講師育成のサービスも提供しています。また、新たに開発した国際海技訓練向けのプログラムは、日本海事協会から海技訓練用シールトレーニングとして認定されました。



2017年に開設したベトナム教育機関との協業トレーニングに続き、2018年8月には、シンガポールの副首相であるTharman Shanmugaratnam氏も参加したシンガポールプロセス産業協会(ASPRI)のオープニングイベントで汎用性の高いフランジ締結技能訓練プログラムを紹介しました。

シンガポールの製造業において、化学・エネルギー産業は最大セクターです。プロセス・建設・メンテナンス(PCM)分野においては、労働力不足によるコスト上昇、質の高いサービスの確保が課題とされ、PCM産業の競争力向上を目指す官民一体の取り組みが進められています。この一環として、ASPRIは外国労働者を対象に訓練施設併設のドミトリーを開設。先述のイベントは地元メディアやCNNのニュースでも取り上げられ、さらにASPRI加盟企業からトレーニングについて問い合わせを受けるなど、社会から高い関心が寄せられています。

今後もさらなる拠点の展開、公的機関との協業などにより、作業員の技能訓練と世界のプラントの安全操業に貢献していきます。

Voice

このようなバルカーの取り組みは、プラントオーナーやプラントエンジニアリング関連企業をはじめ、多くのお客さまから高い評価をいただいております。プラントでの確実なシール施工と技能教育への関心をいっそう高めるべく、バルカーグループは常にお客さまの視点に立ち、独自のシールエンジニアリングを核として、さまざまなサービスの開発と普及をグローバルに推進します。そして、世界のプラントにおける漏洩事故の低減、安全・安心なプラント操業の実現に貢献してまいります。



執行役員 H&S 事業本部 本部長  
椿山 善昭

## 人権尊重／ダイバーシティ

### 多様な価値観・個性を尊重し、一人ひとりが輝ける環境へ

国籍・性別・年齢などにとらわれることなく、それぞれが最大限の力を発揮できる職場環境づくりと、ワークライフバランスの実現に努めています。

#### MY VALQUA WAY

グループ共通の企業理念「THE VALQUA WAY」を羅針盤にして、社員一人ひとりがプロセスを大切にしながら日々の業務に取り組んでいます。

その実践内容を発表し共有する機会として、毎年、全世界の拠点から選ばれた代表者による「THE VALQUA WAY 理解と実践活動の発表会」を開催。企業理念の理解と浸透を図るとともに、グループ社員の交流を通じてグローバルなダイバーシティマインドの向上に取り組んでいます。

#### 人権の尊重

人権問題への正しい理解のもと、「差別を許さず人権を尊重する企業体質づくり」を進めています。一人ひとりが安心して働ける環境をつくるため、国連「グローバル・コンパクト」なども踏まえ、2017年3月に「バルカーグループ人権基本方針」を策定しました。人権基本方針に基づき、引き続きダイバーシティの推進に取り組んでいきます。

#### 職場環境づくり・各種制度

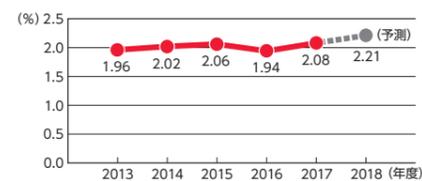
#### 多様な国籍を持つ社員が活躍できる環境づくり

バルカーグループでは外国籍社員の採用やグループ会社間での積極的な人材交流を行っており、社員の国籍はバラエティに富んでいます。言語や文化の垣根を越えて協働する中で、多くの社員が新たな刺激や気づきを得ています。

#### 障がい者雇用の促進

地域との共生を目指し、地元の支援学校などから障がい者の企業実習を積極的に受け入れています。障がい者の方に働くことの楽しさや意義を伝えるとともに、入社後の職場定着と自立を支援しています。

#### 障がい者雇用率の推移



#### 性別を問わず活躍できる環境づくり

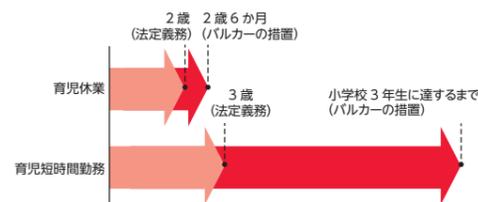
性別に関係なく、多様な視点を取り入れることで、さらなるイノベーションの推進を図ります。とくに、女性のキャリア開発と成長を支援するため、女性管理職比率の目標を定め、積極的な登用を行っています。



#### 子育て・介護支援策の充実

既存の制度に加え、2018年10月からは働き方改革の一環として、「育児のための有給特別休暇」「子どものバースデー休暇」「1時間単位の有給休暇取得制度」の新設と、介護休業の連続取得期間を最長3年に見直しました。柔軟な働き方を可能にすることで、社員が仕事と育児・介護などを両立し、能力を十分に発揮できる環境づくりを進めています。

#### バルカーの育児休業・育児短時間勤務制度 (法定義務との期間比較)



#### 柔軟な働き方を支援する制度

- キャリアリターン制度
- フレックスタイム制度 (コアタイム13:00~15:00)
- 育児休業 [2歳6か月に達する日まで]
- 育児短時間勤務 [子どもが小学校3年生に達するまで]
- 介護短時間勤務
- 【新設】育児のための有給特別休暇
- 【新設】子どものバースデー休暇
- 【新設】1時間単位の有給休暇取得制度
- 【改定】介護休業 [連続取得期間を最長3年に]

## 人材育成

### 持続的成長に向けた人材育成

企業価値を形成する最重要項目が「人材育成」と捉え、経営戦略として取り組んでいます。全社員がその持てる力を発揮できるよう、育成プログラムの充実を図っています。

#### 新入社員向け研修

#### 現場の学びに重きを置いたOJT

バルカーパーソンとして求められる企業理念「THE VALQUA WAY」の理解や社内ルール、製品知識などの基本的な知識を身につけるために、できるだけ早期に現場に配属してOJT教育を行うことを重視しています。

机上の理論ではなく現場での実践を通じて、モノづくりのDNAを肌で感じ、画一的ではない個々の強みや個性に応じた研修によって、「THE VALQUA WAY」に基づき、「変化に柔軟に対応しながら、自ら考え、自ら行動し、完遂できる人材」を育成しています。

#### 目標管理と人事評価の仕組み

社員個人の目標は年度方針や部門ミッションをもとに設定され、「THE VALQUA WAY」と階層別の「求められる人材像」に則って日々の業務に取り組んでいます。

部署内の定期的な面談によりコミュニケーションを密にして、課題と改善点を明確化。より公正な人事評価制度を整備するとともに、バルカーグループの持続的成長に向けた人材育成につなげています。また、人事考課を行う管理職向けに、実践と組み合わせた研修も実施しています。

左) H&S 意識改革 右) 新入社員研修 (THE VALQUA WAY の理解)



左・右) 新入社員研修 (H&S の理解、STC 見学)

#### 次世代の経営幹部候補の育成

選抜した中堅社員を対象に、長期(10年)的な計画に基づいて経営幹部候補を育成。概ね3年ごとにステップアップ・ステージを設定し、次世代を担う経営幹部にふさわしいマインドとスキルを備えた人材育成を目指しています。

#### H&S 企業化に向けた意識改革

バルカーグループの社会的責務は、事業環境の変化や技術革新が加速する中であっても常に「顧客感動提供企業」として、あらゆるステークホルダーから厚い信頼を寄せいただける企業であり続けることです。2018年度から開始した第8次中期経営計画(NV・S8)においては、グループ全体のH&S企業化をさらに加速し、新たな付加価値の創造、そして健全で持続的な成長の実現に努めていきます。

その一環として「意識改革指導者の育成」を実施し、H&S企業の指導者にふさわしい人材を全社から選抜し、育成しています。今後、指導者たちは組織全体にこの意識を浸透させ、グループ一丸となってステークホルダーの皆さまの期待にお応えしていきます。

#### 中国拠点における人材育成

2007年にグループ内最大の生産拠点である中国上海に中国人材開発センターを設立。中国での現地化を加速させるべく、地域特性に合わせた教育体制を構築しました。現地拠点の経営を担う人材育成のために「中国経営幹部研修」を実施し、知識や能力の「底上げ」とともに人材の「選抜」を行っています。2018年より「中国人材開発委員会」を設置して、人材開発に取り組む意識を醸成するとともに、現地で主体的に人材育成・教育を行える体制を整備しました。

#### 社内語学講座

社内講師による中国語・韓国語の語学講座を、入門コースや資格取得コースなど受講者のレベルに合わせて開催。また、語学学習支援制度としてオンライン英会話などを設け、社員の語学力向上に取り組んでいます。

## SHE委員会

# SHE = Safety, Health, Environment

さらなるSHE活動の推進に向けて、外部機関を活用したリスク管理を行いながら、SHEマネジメント体制の強化を図っています。

### SHE 推進体制

#### ◆ SHE 委員会

SHE(安全、健康、環境保全)を一元的に管理するため、社長を委員長とし上席執行役員および委員長が任命する関連執行役員で構成。グループSHE委員会は年1回以上開催され、SHE活動の「年度方針」「活動計画」の審議・承認、「実行状況」の確認を行い、グループ内への展開を図っています。

#### ◆ SHE チーム

事業所もしくは会社単位を基本とし、関係会社社長や事業所長を統括責任者とする「SHEチーム」を設置。グループSHE委員会で承認された「年度方針」「活動計画」をブレイク

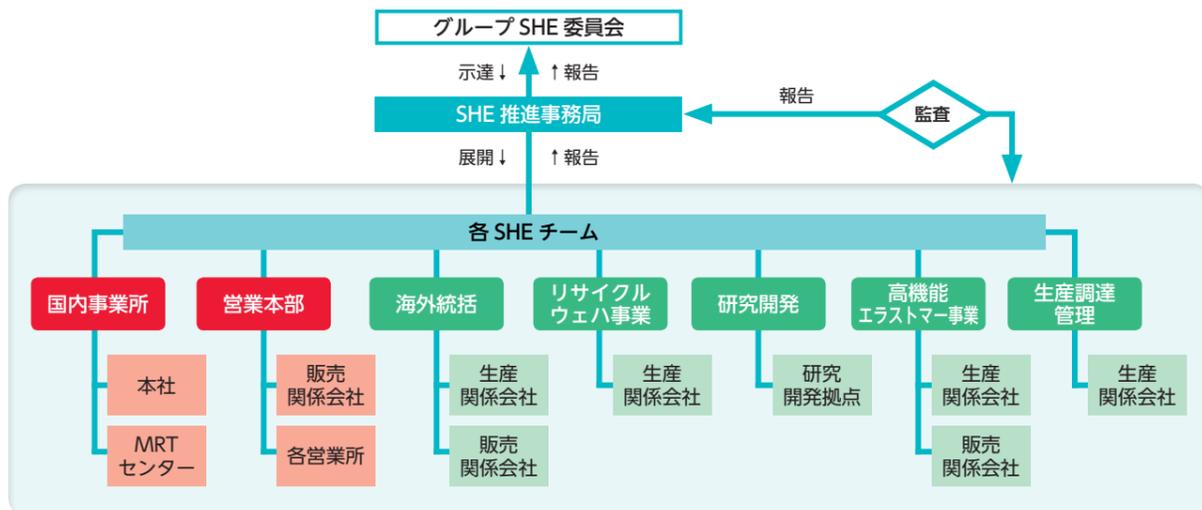
ダウンし、管理の実情、特有の事案、異なる法規制や国民性を考慮した自チームの「年度方針」「活動計画」を立案し実行しています。

### 2018 年度方針

2017年度活動の総括と「THE VALQUA WAY」、バルカーグループ安全衛生憲章、環境憲章、第8次中期経営計画(NV・S8)基本方針、2018 年度Annual Policyをもとに、2017年度に抽出した取り組むべき重点課題を検証し、残された課題や、新たな課題を確認しました。

これに基づき、2018年度の年度方針・基本施策とその推進体制を以下のように定め、活動計画を立案し実行しています。

年度方針	基本施策	
法令遵守管理、監視レベル向上による法令違反撲滅	SHE 法令知識レベル向上	SHE に関する法令基礎知識の教育体制整備 生産関係会社の安全パトロール員の教育体制整備
ハード(設備改善)およびソフト(ルール化と教育)によるSHE リスクの排除	潜在リスクの早期発見と適切な処置、対応	ヒヤリハットと過去の労働災害を分析し、再発防止並びに対応策の横展開を実施する体制整備
メンタル休職者の低減	メンタルヘルス疾患予防策の実施	予防対策の実施体制整備(組織分析結果のフィードバックやアドバイス、階層別研修、セルフケア研修等の実施)
労働における疾病リスクの低減	保護具、保護装置の適切使用による健康被害低減	(特殊健康診断受診対象者向け) 保護具、装置の適切使用の教育体制整備



## SHE基本方針

# 基本的な方針とSHE活動の推進

「安全衛生は全てに優先」「環境にやさしいモノづくり」などの行動指針に基づき、安全衛生憲章、環境憲章を定め、安全で衛生的な操業を行うための取り組み、地球環境の保全を目指した環境活動を推進しています。

### SHE 活動推進のPDCA

グループSHE委員会では、年次で以下の活動の総括を行い、次年度の活動につなげています。

**[Plan]** グループSHE委員会で審議、決議されたグループ全体の「年度活動方針」「目標」「活動計画」は、各SHEチームに落とし込まれ、具体的な活動計画となります。

**[Do]** 各チームは自チームの状況に応じた具体的な活動計画に基づき活動施策を実行します。

**[Check]** 各チームの活動は、所轄するSHE委員が監督します。四半期ごとの活動施策の進捗報告、労災の発生件数やメンタル休職者数などのモニタリングデータをもとに、活動の検証を行い、改善指導や是正指示を行います。

**[Action]** 各チームは改善指導、是正指示に対応しつつ活動を展開することにより、安全、衛生、環境に関する課題を継続的に改善していきます。

## Voice

### SHE 教育の実施

外部講師による危険予知トレーニングやリスクアセスメントなど、安全教育の基礎を現場をモデルとして学ばせていただき、より実践的なスキルを習得することができました。この教育内容を社内展開して、また自ら率先してSHE活動を活性化し、安全衛生の向上に努めてまいります。



バルカー・イダテクノロジー SHE チーム員  
金田 彰夫

### バルカーグループ 安全衛生憲章

バルカーグループは「安全衛生は全てに優先」することをグループ全員の共通認識とし、一人ひとりの自覚と責任の下、グループ一丸となって安全衛生活動に取り組む

### バルカーグループ 環境理念

バルカーは環境理念に基づき地球環境の保全が人類共通の最重要テーマの一つであると認識し、企業活動のあらゆる面で環境の保全に努め、企業の成長および持続可能な社会の形成を目指します

### バルカーグループ 安全衛生方針

安全衛生憲章に基づき次の方針を定め、現場においては、安全衛生活動を実践する

- 5月18日を「バルカーグループ安全衛生の日」と定め、大会を実施し、社員の安全衛生に対する意識の高揚および、無災害と心身の健康維持に向けての活動の起点とする
- グループの安全衛生に関わる管理体制の強化、維持向上を図る
- 安全衛生を確保するため、関係法令・社内の規則などを遵守するとともに、問題意識を持って迅速且つ的確な改善を行う
- 徹底した教育訓練のもと、安全衛生に関するリスクの低減に努める

### バルカーグループ 環境方針

環境理念に基づき、次の方針を定め、社員一人ひとりが良き地域市民としての行動をとり責任を果たしていきます

- バルカーグループ全体の環境管理システムを構築し、維持向上に努め、運用を確実なものとする
- 国内外の法律、規則、条約、協定、などを遵守するとともに自主基準を設け一層の環境保全に努める
- 他産業および社会との連携を図り、環境に配慮した商品の創造およびサービスの提供に努める
- 事業活動の全ての領域で、3R(Reduce, Reuse, Recycle)の強力推進をもって、省資源、省エネルギー、廃棄物の削減および汚染リスクの回避に努める
- 地域社会はもとより広く国際社会への環境情報を開示し、社会との連携と協力に努める
- 環境教育を通して、バルカーグループ全構成員の環境憲章の理解と、環境に関する意識向上を図る

安全衛生推進活動

災害ゼロと従業員の健康づくりを推進

SHE委員会発足後も、従来から重点的に取り組んできた安全衛生推進活動を徹底し、災害ゼロを目指した活動と、従業員の心身の健康づくりに努めています。

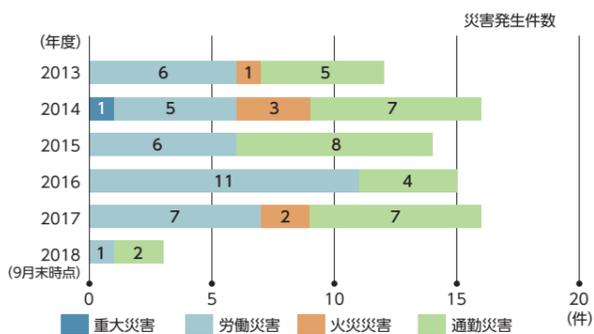
安全衛生推進活動

◆バルカーグループ安全衛生の日

5月18日を「バルカーグループ安全衛生の日」と定め、海外を含めたグループ全ての拠点で安全衛生大会を開催しています。

◆積極的な安全衛生推進活動

バルカーグループにおいてもビジネスのグローバル化が進む中、国ごとに異なる法規制や国民性などに伴うリスクが顕在化。こうした国ごとに異なる法規制や国民性に合った活動をきめ細かく、かつ遅滞なく行うことで、グループ理念の根幹である「安全衛生は全てに優先」を実現できると確信しています。また、健康経営の視点から従業員の健康づくりにも注力し、安全・衛生の両面から健康的で明るい職場づくりや産業医による保健指導を積極的に推進しています。



左)バルカー・イダテクノロジー 安全衛生大会 右)台湾バルカー国際 安全祈願

安全衛生管理者の教育と訓練

①法令遵守管理、監視レベル向上による法令違反撲滅

外部専門家による各工場への安全衛生監査を継続実施。本年度は外部講師による安全研修を実施し、危険箇所を事前に発見できるスキルの向上に向けた活動を推進しています。

②ルール化と教育の徹底によるリスク排除

設備、作業、化学物質などのリスクアセスメントを推進し、定常・非定常作業のみならず生産拠点の移管に伴うリスクの排除に努めています。

心と体の健康管理

①有機溶剤作業の使用低減

有機溶剤を使用しない衛生的な環境の実現に向け、従来有機溶剤の代替剤への切り替えを促進しています。

②ストレスチェック制度

メンタルヘルス不調を未然に防止するため、個人だけでなく、職場ごとに集団分析も実施しています。

③健康診断の実施

全従業員の健康診断受診率は2次検査も含め100%。希望者を対象に、産業医との健康相談を毎月実施しています。

④インフルエンザ対策

感染しても重篤化しないよう予防ワクチン接種を推奨し、感染時の対処方法や拡散防止策を周知徹底しています。

⑤禁煙活動

喫煙の有害性をポスターなどで周知し、喫煙室の利用制限や禁煙率を高める啓蒙活動を実施。煙草の代替になるようなガムやアメを入れたリフレッシュBOXを設置して禁煙率を高める試みも継続しています。

⑥運動習慣の推奨

1回30分以上の運動を週2回以上、1年以上継続することで生活習慣病を予防し、健康な職場づくりを目指しています。

環境保全への取り組み

サプライチェーン全体で環境活動を推進

地球環境の保全が人類共通の最重要テーマの一つであると認識し、環境負荷を低減するための活動に努めています。

環境リスクマネジメント

国内外生産関係会社ではISO14001システムによる環境活動を実施し、特に法令管理について運用レベル評価を実施。弱点を認識し、潜在リスクの顕在化とその予防処置を講ずることにより、未然に違反を防止する体制を強化しています。

2017年度も悪臭や騒音などによる近隣からの苦情発生はありませんでした。また、世界的にリスク管理強化が求められている化学物質管理については、SAICM※により、各国でも法整備が進んでいます。バルカーグループでも禁止物質を製品に混入させない取り組みに加え、各国のグループ生産会社で化学物質排出量を把握する取り組みを進めています。

※SAICM(Strategic Approach to International Chemicals Management):国際的な化学物質管理のための戦略的アプローチ

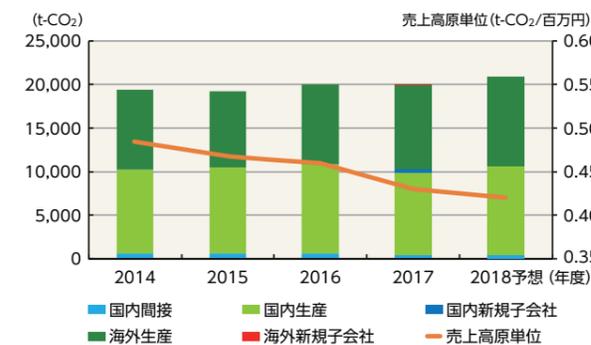
2017年度事業活動に伴う環境負荷データ

INPUT		合計 160,483 GJ
エネルギー		
電力	35,157 MWh	
うち太陽光	52 MWh	
A重油	248,450 ㎖	
LPG	85,341 ㎡	
天然ガス	99,906 kg	
都市ガス	52,722 ㎡	
灯油	147,712 ㎖	
軽油	53,725 ㎖	
水の使用	合計 434,055 ㎡	
上水	83,727 ㎡	
工業用水 他	350,328 ㎡	

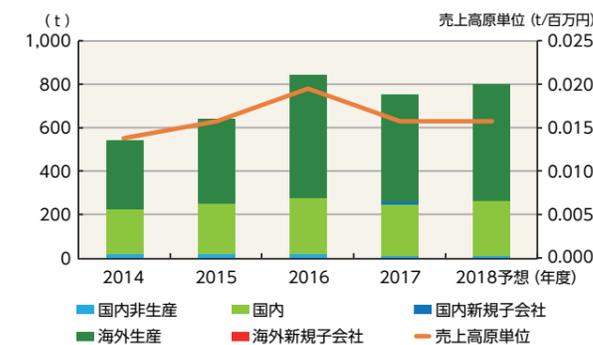
OUTPUT		合計 20,246 t
CO <sub>2</sub> 排出量		
生産関連	19,846 t	
その他	400 t	
廃棄物	合計 757 t	
廃プラスチック類	498 t	
汚泥	126 t	
紙くず	84 t	
他(廃膜、廃アルカリ、廃油、木くず、繊維くず、金属くず)	48 t	
化学物質* 21種類	67,773 kg	

\*化学物質:PRTR法の届出対象物質および同様の海外法規制により排出量を把握している物質を含む

温室効果ガス排出量推移(生産部門+間接部門)



廃棄物最終処分量推移(生産部門+間接部門)



\*温室効果ガス排出量は、「地球温暖化対策の推進に関する法律(温対法)」に基づく温室効果ガス排出量算定・報告・公表制度の各燃料および電力の排出係数を毎年再確認し、算定しています。電力は、排出係数が明確でない海外拠点もあるため、一律に代替値を使用しています。(2014年度:0.000551t-CO<sub>2</sub>/kWh、2015年度:0.000579t-CO<sub>2</sub>/kWh、2016年度:0.000587t-CO<sub>2</sub>/kWh、2017年度:0.000512t-CO<sub>2</sub>/kWh)

顧客満足への取り組み

安全で安心な製品・サービスを提供するために

4つの品質「製品とサービスの品質」「プロセスの品質」「組織の品質」「人の品質」を継続的に向上させるべく、さまざまな活動に取り組み、日々改善に努めています。

品質保証体制と方針

グローバルな体制の一環として、グループ全体を統括する「グループ品質保証委員会」を組織しています。国内外の生産関係会社や販売関係会社を管轄する事業部・本部をはじめとして、研究開発や人材開発など品質に関わる各部門責任者で構成し、その決定事項の具体的展開を指示すると同時に日々の実行に責任を持つことで、グループ全体の実効性を高めています。

また、「品質方針」に基づいて、組織ならびに社員一人ひとりが具体的な目標を掲げ、品質向上活動に取り組んでいます。そのうえで、関連法規制を遵守、お客様の求めに合致した品質を担保し、安全な製品とサービスを提供しています。

バルカーグループ 品質方針

「THE VALQUA WAY」に基づき、「製品とサービスの品質」「プロセスの品質」「組織の品質」「人の品質」を継続的に向上させ、「顧客接点の品質」「製品の品質」を保証する。

4つの品質

- ① 製品とサービスの品質
- ② 製品とサービスをつくりだすプロセスの品質
- ③ 製品とサービスをつくりだす組織の品質
- ④ 組織を構成する人の品質

品質マネジメントシステム

生産関係会社およびグループ本体の営業部門を対象としたISO9001の認定を取得しています。また、生産関係会社の品質管理責任者は本社品質保証部の管轄とし、月単位あるいは週単位で各社品質活動の実行状況管理を行っています。

さらに現場では、定められた標準・基準に基づいた業務の確実性を担保するために、作業者自身による作業前の確認活動を実施し、不具合の発生を未然に防止。日常業務を一つひとつきちんと積み上げることによって、高品質を確保できるよう努めています。

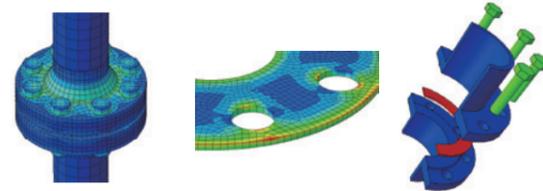
また、生産関係会社および製造委託協力会社に対する指導・監査の実施に加え、品質保証活動の監査を専門に行う品質監査室を設け、グループ全体の品質レベル向上に邁進しています。

評価技術

シール製品の使用環境は多様であり、全てのお客さまを対象に評価・検証を行うことは、これまででは現実的に困難でした。こうした課題に対して、FEA(有限要素解析)を用いて使用環境をコンピューター上で再現・検証する次世代評価技術の開発に取り組んでいます。

この取り組みにより、これまで困難であった大口径装置、高温や高圧条件での検証が可能となり、漏えいや破壊などシール製品における不具合の原因究明や再発防止のための設計提案を行っています。今後もこの技術開発に積極的に取り組み、全てのお客さまの安心・安全に貢献していきます。

三次元解析



Seal Quick Searcher シール製品検索ウェブサイト「Seal Quick Searcher」

製品選定に悩むお客さまの要望にお応えし、選定ミスによるトラブルを防止するため、多様な切り口での製品検索サイトを開設しています。流体・温度・圧力などの使用環境、キーワード、産業分野などから当社推奨製品を検索できるサービスや、取り扱いに必要な締付け力の自動計算サービスなどによって、今すぐ最適な製品を選定したい、必要な情報だけを用いて技術資料を作成したいというお客さまの個別課題をリアルタイムに解決。今後も本サイトの充実を図り、幅広い視点でお客さまの期待に応えていきます。

※「Seal Quick Searcher」は当社ホームページトップ画面よりご利用いただけます。

サプライチェーンマネジメント

サプライチェーン全体でCSRを推進

サプライチェーン全体に参加する全ての企業が社会の要請に応えることで社会的責任を果たせるものと考え、パートナーであるサプライヤーとの連携を強化し、サプライチェーン全体でCSRを推進していきます。

CSR 調達ガイドライン

バルカーグループは、社会・環境・人権などにも配慮した調達活動に取り組むべく、2016年に「CSR調達ガイドライン」を制定しました。企業理念「THE VALQUA WAY」と「CSRコンセプト」に基づき、「調達基本方針」として5つの方針を掲げています。サプライチェーン全体でのリスクを最小化し、健全な調達活動を推進します。

CSR 調達の推進

サプライチェーン全体でのCSR調達を推進する活動の一つとして、各サプライヤーにおけるCSR推進状況を確認するための自己評価アンケートを実施しています。

2017年度は、取引額の8割以上を占める主要な調達・購買先であるサプライヤーを対象にアンケートを実施。アンケートは調達基本方針に沿った項目(8項目・20設問)とし、各サプライヤーにおける法令遵守、公正取引、環境への配慮、人権尊重、安全衛生などの取り組み状況を確認しました。アンケートの回答率は100%。CSRの重要性を共通認識とし、サプライヤーとの連携を強化しました。

実施したアンケートの回答をもとに点数化した結果、設定している目標値を上回っているサプライヤーは70%でした。調査結果は各サプライヤーへフィードバックすることで、情報共有を図るとともにさらなる活動の推進を要請しています。目標値を下回ったサプライヤーは改善指導対象とし、取引を継続していくために個別に教育資料を提供するなど、CSR調達の実現に向けた継続的な支援・協働の取り組みを行っています。

今後、さらに活動を推進していくため、アンケート内容を精査するとともに、サプライヤーに対する個別の支援などを通じてCSR調達の定着を目指します。

紛争鉱物※への対応

バルカーは、紛争鉱物への対応を企業の責務と捉えて、CSR調達ガイドラインに対応方針を定め、調達品の調査をしています。今後もサプライヤーと連携して、人権侵害に加担しない取り組みを強化していきます。

※紛争地域で人権侵害、不正などを行う武装グループの資金源となる鉱物

CSR アンケート回答

2017年度平均 目標 80点 ⇒ 実績 87点

バルカーグループ 調達基本方針

1. 法令・倫理の遵守  
法令・社会規範を遵守し、健全で公正な企業活動を実践するとともに、サプライヤーに対し社会的責任を意識した行動を要請します
2. 公正な自由競争の原則  
世界中のサプライヤーから優れた部材・サービスを最適な地域から公正な競争原理にて調達活動を行います
3. 環境保全に配慮した企業活動  
製品に使用する資材について、地球環境に配慮した調達を積極的に行います
4. 人権への配慮  
人権尊重を徹底した企業活動を実践します
5. 安全衛生  
企業における潜在危険有害要因を未然に予知・対策することにより災害防止に努めるとともに、適切な健康管理を実施し、安心して働ける職場の安全衛生を維持向上させる活動を実践します

バルカーグループ CSR調達基準

1. 法令・倫理の遵守
  - ①企業活動における法令遵守の徹底
  - ②不適切な利益授受の禁止
  - ③適切な輸出入
  - ④知的財産権の尊重と保護
  - ⑤情報管理
  - ⑥情報のセキュリティ
  - ⑦紛争鉱物
  - ⑧労働
2. 公正な自由競争の原則
  - ①開かれた購買
  - ②公平かつ公正な購買活動
3. 環境保全に配慮した企業活動
  - ①環境関連法令・規制の遵守
  - ②環境に配慮した生産プロセスにおける維持管理の徹底
  - ③環境負荷物質の低減・削減
  - ④公害防止、環境保全
  - ⑤大気汚染
4. 人権への配慮
  - ①個人情報の尊重
  - ②非人道的な扱いの禁止
  - ③差別の禁止
5. 安全衛生
  - ①職場のリスク管理
  - ②衛生管理

地域社会との共生

社会貢献活動の推進

世界中の各拠点で、地域に根ざした社会貢献活動を行っています。  
社員一人ひとりが、バルカーを取り巻くたくさんの人々と共に考え、自ら進んで行動していくことを目指しています。

地域社会に対する感謝の日

世界中の人々とより豊かな未来を築いていくために、私たちに何ができるのか。その答えの一つが、毎年行っている「地域社会に対する感謝の日」です。

世界中のグループ会社の各事業所・営業拠点・工場で、地域社会に根ざしたボランティア活動を実施。2017年度は世界45か所、総勢1,560人の社員と家族が参加して、海岸や道路清掃、花壇の花植え、養護施設支援のための募金活動などを行いました。

バルカーシール講習会

バルカーグループは、化学工場などの安全操業対策として、中国石油・化学工業連合会とともに「バルカーシール講習会」を開催しています。中国で2003年から毎年行われ、2017年に13回目を迎えました。講習会には中国企業を中心に、100名以上の技術者が参加しています。工場などで使用されるシール材の正しい取り扱い方法、製品に関する技術講演などを通じて、安全操業を促進しています。

CSR 活動の推進

◆ポイント制度の導入

積極的に社会貢献活動に参画する社員を支援し、モチベーションの維持・向上を図るために2016年から独自の「活動支援ポイント制度」を導入しています。個人表彰および優秀事業所の表彰を行うことにより、社会貢献活動の活性化と底辺拡大につなげ、全員参画型のCSR活動を推進しています。

◆イベント運営を通じた社員教育

活動の一つである「バルカーカップ統一全日本ダンス選手権」には、100名を超える役員・社員が主催組織と協働する形で大会運営に携わっています。これは企業理念「THE VALQUA WAY」を背景としたCSR活動の実践であると同時に、通常の業務とは全く違う世界での貴重な学びの場であり、このプロジェクトを通して社員のさらなるホスピタリティ精神の醸成を図っています。



上段) 左からチームチャイナ、バルカーアメリカ、バルカーエラストマー 下段) 左からバルカーコリア、本社（お花いっぱい大崎）、台湾バルカー国際（児童養護施設支援）

国際支援／スポーツ支援

グローバル社会の一員として、社会に、未来に貢献

地域の発展に向けた社会貢献活動を展開しています。  
また、長年にわたりCSR活動の柱の一つとしてスポーツ支援を行い、明るい未来づくりに努めています。

社会貢献団体の活動支援

そのままでは廃棄されるだけの古紙や古切手、ペットボトルキャップは、NPO法人へ寄付することで活動支援となります。ペットボトルのキャップは分別回収して、「NPO法人エコキャップ推進協会」へ寄付。また古切手を集めて福祉団体「国際協力NPOジョイセフ」や「誕生日ありがとう運動本部」へ寄付する活動を行っています。

一つひとつは小さな活動ですが、発展途上国の子どもたちにポリオワクチンを贈る活動や、生活支援へとつながる大切な活動と考えています。

◆難民支援

バルカーグループは、国連UNHCR協会を通じてUNHCRへ寄付することにより、紛争や迫害などによって故郷を追われた難民・避難民を支援しています。2017年12月～2018年1月に寄せられた社員からの寄付に対して、本社より同額を上乗せして寄付を行うマッチング寄付を実施しました。また、2019年3月に開催されるチャリティマラソンへの社員ランナー出走を通して、難民・避難民の避難生活を支えるキャンペーンへの寄付も行っています。



【寄付先からのメッセージ】

UNHCR（国連難民高等弁務官事務所）は1950年に設立された国連の難民支援機関です。紛争や迫害により故郷を追われた難民・避難民を国際的に保護・支援し、難民問題の解決に対して働きかけています。1954年と1981年にノーベル平和賞を受賞。スイス・ジュネーブに本部を置き、約130カ国で援助活動を行っています。この国連の難民支援活動を支えるため、広報・募金活動を行う公式支援窓口が、国連UNHCR協会です。皆様の温かいご支援に心より感謝を申し上げます。

【2017年度 寄付実績】  
ペットボトルキャップ 169kg（ポリオワクチン 87人分）  
古紙・古切手などによる寄付 71,089円  
難民支援のための社員とのマッチング寄付 186,000円  
【2018年度 寄付実績（9月末時点）】  
チャリティマラソンを通じた難民支援 500,000円

「ボールルームダンス」の支援

生涯スポーツとして幅広い世代に支持され、また華やかな競技スポーツとして世界各国に多くのファンを持つボールルームダンス。バルカーグループは、その振興支援活動に2014年から取り組んでいます。

バルカーが支援している大会は、真の日本一を決定する最高峰のダンス競技会「バルカーカップ統一全日本ダンス選手権」、ジュニア・ユース世代の全国大会「小・中・高校生全日本チャンピオンシップ」、視覚障害者の全国大会「全日本ブラインドダンス選手権大会」など。2018年には国内外のトップ選手が一堂に会した「日本インターナショナルダンス選手権大会」に協賛しました。

これからもスポーツ支援を通して、子どもたちの健やかな成長と健全で活力のある社会の形成に貢献していきます。



上) バルカーカップ統一全日本ダンス選手権  
左中) 小・中・高校生全日本チャンピオンシップ  
右中) 全日本ブラインドダンス選手権大会  
下) 日本インターナショナルダンス選手権大会

## コーポレートガバナンス

## 多様なメンバーによる、グループ経営体制を構築

経営理念「正正堂堂」を基本姿勢とし、透明・公正かつ迅速・果敢な意思決定を可能にする経営体制を構築。持続的な成長と企業価値の向上を目指し、最良のコーポレートガバナンスを追求しています。

## コーポレートガバナンス

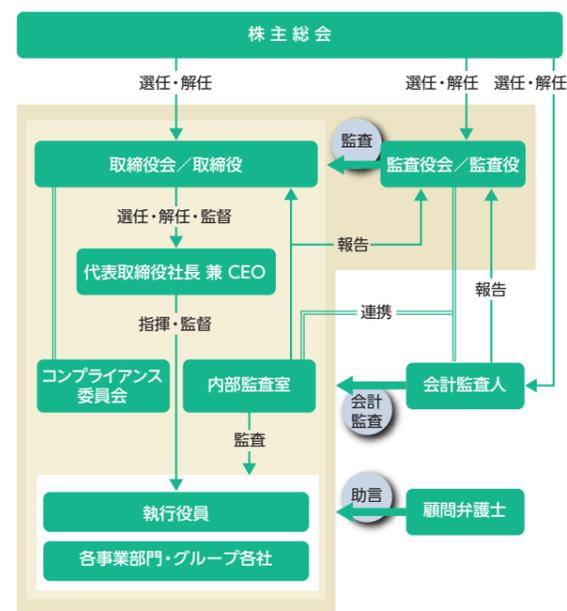
## ◆基本的な考え方

バルカーグループは、企業理念である「THE VALQUA WAY」のもと、シールエンジニアリングのパイオニアとして、企業の持続的な成長による企業価値の向上を実現するため、透明・公正かつ迅速・果敢な意思決定を行うための経営体制を構築し、最良のコーポレートガバナンスを追求し、その充実に継続的に取り組んでまいります。

## ◆コーポレートガバナンスの状況

経営環境の急激な変化に迅速かつ的確に対応するため、執行役員制度を導入し、取締役と執行役員の役割を分離した機動的なグループ経営体制を確立しています。また、公認会計士2名、弁護士1名を含む監査役が、取締役および執行役員の業務執行につき監査を行うことで、経営に対する専門性の高い監視・監査機能を果たしています。

## コーポレートガバナンス体制図



## 取締役会・監査役会の構成 (2018年12月1日現在)

取締役 5名 (男性3名、女性2名)  
うち社外取締役3名 (男性1名、女性2名)

監査役 4名 (男性4名)  
うち社外監査役3名 (男性3名)

## ◆内部監査室

グループの事業活動全般に関して内部監査を実施するため、取締役会直轄の業務執行部門から独立した内部監査室を設置しています。内部監査室は年間監査計画に基づき、内部統制、コンプライアンス、リスクマネジメントなどの幅広い観点から監査を実施し、評価・提言を行っています。

## 内部統制システム

## 業務の透明性と信頼性を確保

透明性の高い業務プロセス、適切なリスク管理体制を構築することによって、内部統制システムの整備・推進に努めています。会社法などに基づく「内部統制システムに関する基本的な考え方」を取締役会で決議し、この内容を外部環境・内部環境の変化に応じて適宜見直しています。また、金融商品取引法に基づく財務報告に係る内部統制報告制度への対応として、内部統制の体制構築、社内規定・規則や業務プロセスの整備・評価・改善を行っています。

2017年度においては、財務報告が有効である旨を記載した内部統制報告書を、監査法人による適正意見を得たうえで開示しました。財務報告の信頼性を確保するための取り組みを継続しています。

## コンプライアンス

## 一人ひとりのコンプライアンス意識向上

企業理念「THE VALQUA WAY」に基づく行動指針として「コンプライアンス遵守と誠実な行動」を定め、全グループ社員が常にこれに従って行動することを求めています。

## コンプライアンス

## ◆基本的な考え方

バルカーグループにおける「コンプライアンス」とは、法令遵守にとどまらず、他の企業の模範となるべく積極的に法令や条例以上の企業倫理を遵守し、社会貢献や環境への配慮にまで踏み込んだ企業行動の実践によって、ステークホルダーの要求・信頼に応え、社会における信頼を勝ち得ていくことです。このコンプライアンスの重要性を理解し実践することが、バルカーグループの永続的な成長・発展を約束するものであると固く信じています。

## ◆コンプライアンス体制

コンプライアンス委員会、コンプライアンス推進委員会を設置し、コンプライアンス推進の最高責任者として任命された「チーフ・コンプライアンス・オフィサー (CCO)」を中心に、グループコンプライアンス体制の整備および向上に取り組んでいます。

コンプライアンス遵守のためのグループ体制の強化とリーガルマインドの醸成を基本方針とし、2018年度からはCCO管下にコンプライアンス監督室およびコンプライアンス推進室を設置し、推進と監督の両輪から、健全で持続的な会社の成長基盤づくりに貢献する体制へ変更しました。



## ◆コンプライアンス・マニュアル

全グループ社員の業務の指針とするため、コンプライアンス・マニュアルを2003年に制定し、各国の言語(英語、中国語、韓国語、タイ語、ベトナム語)に翻訳して共有しています。

法令・環境保全・情報管理・反社会的勢力などの一般的事項をはじめ、営業活動・職場環境・私的行為に関する事項に分類。全社員が理解し、遵守すべきマニュアルとして活用しています。

## ◆社員教育

コンプライアンスに関する社員教育として、コンプライアンスセミナーを行っています。2018年度からは、従来からの階層別教育のほか、コンプライアンス推進室がバルカーグループ内の全拠点を対象に巡回して実施しています。

その他、コンプライアンスに関わる身近でタイムリーな話題を取り上げたリーガルニュースを毎月発行し、社員への啓発を図っています。

## Voice

バルカーグループは、企業理念である「THE VALQUA WAY」を基軸とし、行動指針として「コンプライアンス遵守と誠実な行動」掲げております。グループ社員一人ひとりが理念に導かれた共通の理解を持つことで、各国の事情やそれぞれが携わる業務の違いを超えて、高い倫理観をもって正しい行動をとることができるものと考えております。

2018年には、このような理念に裏付けられたコンプライアンスの実践をさらに深化させるため、現地監査を主要業務とするコンプライアンス監督室と、コンプライアンス意識を醸成し啓蒙活動をつかさどるコンプライアンス推進室をCCOの管下に設置し、健全な企業成長の前提となる盤石な基盤固めに注力しております。私たちはステークホルダーの皆さまの期待と要請に応えていくため、これからも歩みを続けてまいります。



執行役員 法務部長 兼 コンプライアンス監督室長  
谷田部 麻美子

## コンプライアンス／リスクマネジメント

## 多様なリスクの的確な把握と対処に努めています

事業に関わる多様なリスクの把握と予防、顕在化した場合の危機管理を含め、安定的な事業継続を図るためのリスク管理体制を構築しています。

## ◆知的財産権の尊重

バルカーグループは、経営理念の一つに「独創的技術で」を掲げ、この独創的技術とサービスを融合させた「真のソリューション提供企業」への脱皮を目指しています。知的財産部では、こうした企業活動で創出される価値を適切に保護し、お客さまの課題解決につながる製品やサービスの提供を支援。また、他社の知的財産権を尊重するために社内ルールを定め、このルールを遵守する体制を構築しています。具体的には、自社製品やサービスが第三者の知的財産権を侵害しないよう、研究開発のさまざまな段階で第三者の知的財産権の調査を徹底。この調査は、知的財産部と研究開発部門の協力体制のもと、グローバルに行うことで、コンプライアンス遵守の徹底を図っています。

## ◆報告・相談・通報制度

グループ社員が法令や社内規定・規則などに関わる報告・相談・通報ができる仕組みとして、外部・内部での複数の窓口を通じた報告・相談・通報制度を設けています。

外部窓口

- ①社外弁護士
- ②外部委託機関が運営する企業倫理ホットライン  
(日本語、英語、中国語、韓国語、タイ語、ベトナム語対応)
- 内部窓口
- ③意見箱
- ④CEOと直接コミュニケーションできるCEOダイレクトライン

これらの制度は、通常の指揮命令系統から独立して運営されているため、情報は秘匿され、報告・相談・通報したことによって社員に不利益が課せられることがないように運用されています。なお、報告・相談・通報件数の実績は、2017年度は5件、2018年度(9月末時点)は14件でした。引き続き本制度に基づいて、報告・相談・通報された件に対する適切な対応を行うとともに、制度の利用を促進していきます。

## リスクマネジメント

## ◆基本的な考え方

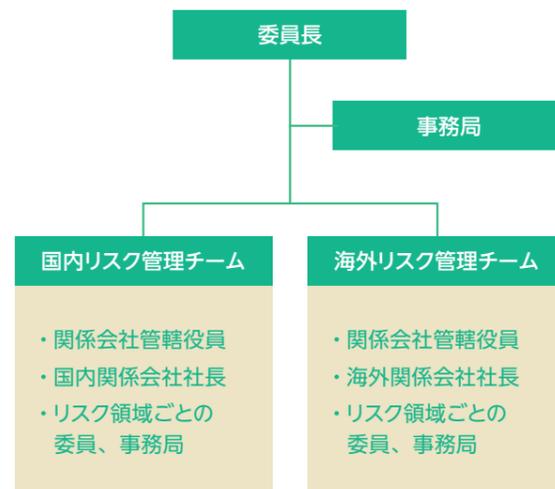
第8次中期経営計画(NV・S8)においては、事業領域のさらなる拡大と従業員数・拠点数の増加が見込まれています。また、企業への社会的な要請が高まるなか、リスクマネジメントにおいてもその質が問われています。

バルカーグループはステークホルダーとの信頼関係を維持し、事業を安定的に継続していくために、多様化するリスクとその影響を的確に把握し、コントロールできる管理体制を構築しています。

## ◆リスク管理体制

バルカーグループは前中期経営計画(NV・S7)からリスクマネジメントの強化を図ってきました。その要となる「リスク管理委員会」は、国内外の事業環境の急激な変化と事業領域の拡大に伴って多様化するグループ経営上のリスクを一元管理するために設置されました。

リスク管理委員会が中心となって、国内外のグループ会社を取り巻く事業リスクを一元管理することで、バルカーグループを取りまく環境の変化へ柔軟かつ的確に対応していきます。



## 編集方針

本レポートは、バルカーグループの持続的成長に向けた基本的な考えと、CSR活動における重点課題に沿った取り組みをステークホルダーの皆さまにお伝えするため、毎年発行しています。

## 報告対象期間

2017年4月～2018年3月

報告の一部に2018年4月以降の数値と内容を含みます。なお、体制図、方針、基準などは、2018年12月現在のものです。

## 対象範囲

株式会社バルカーおよびその連結子会社  
(障がい者雇用率、女性管理職比率は単体数値としています)

## 発行

2018年12月発行  
(前回発行2017年12月)

## 報告媒体

冊子・PDF版	重点的な取り組みを年次レポートとしてまとめています。 「CSR情報」 <a href="http://www.valqua.co.jp/social/">http://www.valqua.co.jp/social/</a>
WEB版	WEBサイトには最新情報・追加情報を網羅的に掲載し、随時更新しています。 「技術情報」「IR情報」「会社情報」など <a href="http://www.valqua.co.jp/">http://www.valqua.co.jp/</a>

## 『現代ガスケット概論』のご紹介

## ガスケットとボルト締めフランジ継手の技術的基礎をわかりやすく説明した業界初の“ガスケット解説書”

近年のさまざまな環境規制にともない、ガスケットの種類およびその材料は大きく変容し、ボルト締めフランジ継手の設計基準にも大きな動きが見られます。そうした技術的状況を受け、JIS規格「パッキン及びガスケット用語」も37年ぶりに全面改正されました。

このほど刊行いたしました『現代ガスケット概論』は、JIS用語規格改正に至った技術的背景をたどるととも

に、ガスケットとボルト締めフランジ継手の技術的基礎をわかりやすく説明した、初めての“ガスケット解説書”といえるものです。ガスケットにかかわる多くの方々に、参考にしていただける内容となっています。

著者：株式会社バルカー シニアフェロー 西田隆仁  
(お問い合わせ先：総務人事部 sr@valqua.co.jp)



## 会社概要

## 株式会社バルカー

本社：〒141-6024  
東京都品川区大崎二丁目1番1号 ThinkPark Tower 24階  
創業：昭和2年1月21日  
設立：昭和7年4月8日  
資本金：13,957百万円  
上場証券取引所：東京証券取引所市場第一部  
従業員数：425名(グループでは1,759名、2018年3月31日現在)  
事業内容：産業機器、化学、機械、エネルギー、通信機器、半導体、自動車、宇宙・航空産業など、あらゆる産業向けにファイバー、ふっ素樹脂、高機能ゴムなど各種素材製品を設計、製造、加工および販売



# 子どもたちの 夢いっぱいの未来を大切にしたい。

その思いを込めて、グループ社員の子どもたちの笑顔で表紙を飾りました。

## バルカーグループ

お問い合わせ先：株式会社バルカー  
総務人事部 TEL 03-5434-7370 FAX 03-5436-0560  
〒141-6024 東京都品川区大崎二丁目1番1号 ThinkPark Tower 24階  
<http://www.valqua.co.jp>

